

バイオマス・エネルギー利用施設で栽培されたミニトマトの出荷開始

知多農林水産事務所

半田市では、「半田市バイオマス産業都市構想」により食品廃棄物、生ごみ等の廃棄物を再資源化して発生させたメタン発酵ガスを活用するトリジェネバイオガス発電施設（運営会社：株式会社ビオクラシックス半田）が整備され 2021 年から稼働している。

そこで、発電により発生する余剰熱、CO₂についても有効に活用するため、運営会社の関連会社である農業法人株式会社にしまちが 2022 年度に強い農業づくり総合支援交付金を活用し、発電施設の隣接地へ化石燃料に依存しないミニトマト栽培ハウス（バイオファームHANDA）の整備を行い、2023 年 4 月からのテスト栽培を経て同年 11 月に本格出荷が開始された。

1 ミニトマト栽培ハウスの整備

整備された低コスト耐候性ハウスは 15 連棟構造で施設面積 12,240 m²は地域で最大規模を誇り、後述のバイオマス・エネルギーの活用を始め複合環境制御装置によるハウス内環境を最適化したミニトマトの養液栽培が行われている。



ミニトマトハウス内部

2 バイオマス・エネルギーの活用

当ハウス最大の特徴であるバイオマス発電で発生した余熱、CO₂の活用は発電施設から直接配管をつなぐことにより、ハウスへと供給され、化石燃料に依存しない栽培環境を実現している。

また、ミニトマト栽培で発生する残渣についてもメタン発酵ガスの原料として再利用されている。



発電施設からの熱・CO₂配管

3 にしまちのブランドミニトマト

（株）にしまちは、2014 年から常滑市でミニトマト栽培を開始し、市場を通さないバイヤー等との直接取引を中心に「金赤トマト」のブランドで全国へ出荷を行っている。

今回整備したハウスで収穫されるミニトマトについては、にしまちの新たなブランド「HANDA ミラトマト」として出荷されている。



HANDA ミラトマト